

令和4年度 第1回教育課程編成委員会 報告

1. 開催日時

令和4年9月8日（木）16：30～17：45

2. 開催場所

3階会議室

3. 委員

	氏名	所属等	備考
	竹本 榮	大阪市私立保育園連盟副会長	
	宇都宮 彰治	元大阪市立学校園長	
	水戸井 ゆかり	第二善児園園長	
	萩野 寿美	勝山愛和第四幼稚園園長代理	
	福本 光美	勝山愛和第二幼稚園園長代理	
	三上 教道	学校長	
	吉本 春樹	副校長	
	三上 聡子	学科長	
	入江 実	教授	
	西林 幸三郎	特任教授	
	松葉 修孝	学務部副部長	
	日村 義正	学務部	
	中島 仁志	学務部	

4. 議事

(1) 学校長挨拶

教育課程編成委員会の会議の趣旨及び、保育者養成において必要とする内容について、令和4年度に取り組む内容報告から教育保育現場の意見を拝聴し、令和5年度に向けて教育課程のカリキュラムなどの取り組みの参考としたい。

(2) 報告

① 教育課程と学校独自科目について

平成31年度の新課程移行にあたって、教職課程全体の質向上のため、全国すべての教職課程で共通に習得すべき資質能力（教職課程コアカリキュラム）を規定したことにより、地域や現場のニーズや学校の自主性や独自性は「学校独自科目」に反映されることになった。令和4年度からは、指導法に関わる科目が教科から領域へ移行し、新課程の完全実施となる。

本校では、「保育者の資質と専門性に加えて得意分野に強みを持った保育者の育成」を目指し、独自科目を設定した。学生は設定された科目を通じて、基礎的な知識を学び、その上で特修科目として、音楽、体育、図工の何れかを選択し、自らの技能をさらに高めていく。そ

れによってより質の高い保育者を養成することがねらいである。

② インターンシップについて

「得意分野に強みを持った保育者の育成」については、「児童(幼児)体育コース」、「福祉(臨床)保育コース」を設置しているが、「教育保育コース」について、新たに「インターンシップ」を設定し、より実践的な応用力並びに想像力を備えた保育者の養成を目指した。

インターンシップ(1単位)は、より実践的な応用力並びに想像力を備えた職業人の養成を目標とする。グループの幼稚園・認定こども園の日常の保育活動や年間を通じての様々な園行事に参加することで、保育現場で必要とされる知識・実践力を深める。また、継続的に同じ園でインターンシップを行うことで、幼稚園教育の目標、保育の理念、保育の方法、保育内容、保育者の援助等を体験的に深く学んで専門性と実践力を高め、より深い子ども理解に繋げていくと同時に、自らの創造性や向上心を高めることを目的とする。

③ 特別講座について

特別講座の設定理由は、「望ましい人格形成と豊かな教養及び、質の高い専門職の養成を目的として、社会人として必要な知識、保育福祉現場で役立つ内容を時事的・学際的に精選し、主体的な学びの意欲を高める。」ことである。

具体的な内容については、次回で説明する予定。

(3) 意見交換

- 最近の傾向として、新人の保育者は保護者対応を始めとしてコミュニケーション能力、特に応用力や想像力が弱い傾向にある。決められたことはできるが、マニュアル外の動きや機転を利かすという部分を養うことが必要。
- インターンシップに関しては、現場では中高生の職業体験を受け入れているが、同じ園で継続的に体験することで子どもの成長が見えることはとても大切だと思う。
- インターンシップについて、継続的に子どもたちと関わり、ふれ合うことはとても大切。授業でも子どもの実際の姿がわからないと具体的にイメージできないのではないか。
- 特別講座に設定されている「幼保小接続」については、現場では現実的にまだまだといった感がある。もちろん、小学校との交流では年少の園児を高学年の子がエスコートしたりということはあるが、中には幼児教育に対して意識が低い小学校教員がいるのも事実である。「幼保小接続」に関しては、文科省はカリキュラム連携等を考えているが、交流会等を通じて長いスパンで取り組んでいく必要がある。
- 「幼保小接続」については、子どもの発達の連続性の視点から捉える必要がある。その意味では幼児教育に対する小学校の担任の知識の低さが問題。学習や生活指導等、どこから始めるのか、幼稚園教育要領や保育所保育指針と小学校教育要領の実際のつなぎ方を学び、その連続性の視点を持つことが必要。それは、幼保小の教員の養成課程の学びの問題である。

以上の意見を元に、次回(第2回)に継続していくこととした。

令和4年度 第2回教育課程編成委員会 報告

1. 開催日時

令和5年1月26日（木）16:30～17:35

2. 開催場所

3階会議室

3. 委員

	氏名	所属等	備考
	竹本 榮	大阪市私立保育園連盟副会長	
	宇都宮 彰治	元大阪市立学校園長	
	水戸井 ゆかり	第二善児園園長	委任状出席
	萩野 寿美	勝山愛和第四幼稚園園長代理	
	福本 光美	勝山愛和第二幼稚園園長代理	
	三上 教道	学校長	
	吉本 春樹	副校長	
	三上 聡子	学科長	
	入江 実	教授	
	西林 幸三郎	特任教授	
	松葉 修孝	学務部副部長	
	日村 義正	学務部	
	中島 仁志	学務部	

4. 議事

(1) 学校長挨拶

令和4年度に取り組んだ内容の報告を元に前回と継続して、教育保育現場の意見を拝聴し、令和5年度に向けて新たな内容について検討していきたい。

(2) 報告

① 特別教育活動について（学外見学を中心として）

学外学習として、保育現場での園外活動先とされている施設の見学を実施している。コロナウイルス感染症による制限が掛かる以前は、教員が引率して集団で実施していたが、今年度は学生が個別に見学し、レポートを提出する形で実施した。令和4年度の見学先は、「大阪市立天王寺動物園」、「大阪市立長居植物園・自然史博物館」、「大阪市立科学館」、「大阪市立阿倍野防災センター」である。

② 特別講座について

特別講座の設定理由は、「望ましい人格形成と豊かな教養及び、質の高い専門職の養成を目

的として、社会人として必要な知識、保育福祉現場で役立つ内容を時事的・学際的に精選し、主体的な学びの意欲を高める。」ことである。そのため、教育課程に定められた授業の枠を超えて、今後職業人として生きる学生に向けて有意義な内容を選定した。令和4年度に開講した講座は、以下の通りである。

イ. 手話（I・II部対象 8回）

大阪ろうあ会館の方を講師に迎え、特別支援教育の観点から聴覚障がい者を理解し、聴覚障がい者の生活・文化を知り、コミュニケーション手段である手話を学ぶ。

ロ. 幼保小接続（I・II部対象 3回）

幼児期の教育（幼稚園、保育所、認定こども園における教育）と児童期の教育（小学校における教育）を円滑にすすめ、子どもの発達や学びの連続性を保障するための理論を学ぶ。

ハ. 子どものあそび文化（I・II部対象 2回）

子どものあそび文化について、実際に「あそび」を体験することで、「あそび」の必要性を理解するとともに、あそびを通じてコミュニケーション能力を高める。

- ・ バルーンアート講座（I・II部対象 1回）
- ・ 絵本読み聞かせ（I・II部対象 1回）

ニ. 消費者教育（I・II部対象 1回）

成年に達することによって消費者としての権利と責任が大きく変化することを踏まえ、消費者被害に遭わないための契約や商品の安全に関する知識を身につけるとともに自立した社会人としての消費者の育成を目指す。

ホ. 防犯教育（I部対象 1回）

生野警察署の生活安全課の方を講師に迎え、保育現場において喫緊の課題である防犯対策を学び、子どもたちの安全を守るための知識を身に付けるため、不審者が園内に侵入した場合を想定して不審者訓練を行なった。

ヘ. メンタルヘルス研修（I・II部対象 2回）

卒業、就職を控え、社会人とりわけ対人援助職として自らの心身の健康や生活に影響を及ぼす様々な問題によるストレスに対応し、その影響を最小限のものにするためにメンタルタフネスの考え方を学ぶ。

ト. 救命措置（中級）講習（I部対象 2回）講師：

生野消防署救急隊の方を講師に迎え、呼吸や心臓が止まったときに大切な「AEDの使い方」を含む心肺蘇生法で、主に乳児・小児に対する応急手当の方法を学ぶ。（webによる事前講習1時間+講習2時間）

(3) 意見交換

- 現在、保育現場での子どもへの虐待がマスコミで報道され、大きな問題となっている。保育現場においては、それはどこにでも起こり得る問題である。保育士としての適性の問題はさておき、日頃のストレスの発散や燃え尽き症候群（バーンアウト）をいかに回避するか視点から、メンタルヘルスのあり方についてはとても大切。現場でも、アンガーマネジメント講座による「怒り」のコントロールなどに取り組んでいるが、何よりも職員同

士のコミュニケーションを密にすることで多くの問題は回避することができる。

- マスコミで報道されている「送迎バス子どもの置き去り事件」についても、現場では他人事でなく自分事として捉える必要があり、意識として子どもファーストに立ち戻る必要がある。学生も保育に関わっている以上は然りであり、そうした投げ掛けをしてほしい。
- 学外学習については、子どもの直接体験を大切にするという視点からも重要。先生自身がそれを体験していないと指導ができないし、子どもの体験を大切にすることを育ててほしい。昨今はICTの導入で多様なことができるが、それは手段であって目的であってはならない。幼児教育でそれを取り上げることには疑問を禁じ得ない。子どもの発達論と絡めて捉えることが重要である。
- 「子どもの遊び文化」で、絵本の読み聞かせが取り上げられているが、絵本は子どもの年齢に応じた選び方も重要であり、学生には深く掘り下げた指導が必要。
- 貴校のインターンシップの学生を受け入れているが、通常の実習と違って制約が少ないので、日常の子どもたちの姿に接して、言葉を交わすことで実習では経験できないことが経験できているのではないかと思っている。

これらの意見をもとにして、次年度以降における本校の教育課程について、より充実したものになるよう検討していきたい。